

プロフィール

イギリスの大学院で開発行政計画学修士を取得後、アフリカの角地域の遊牧・放牧民の生活支援を行うイギリスの NGO で 2 年半勤務。その後、スーダンで、2 年間、JICA 専門家として農業科学技術協力プロジェクトのマネジメントに携わり、次に、JICA イラク事務所にて、農業、教育、行政のプログラムマネジメントに 2 年間携わる。その後、平和構築人材育成事業に参加。海外実務研修では、国連開発計画 (UNDP) バングラデシュ事務所のチッタゴン丘陵地帯開発機関 (Chittagong Hill Tract Development Facility (CHTDF)) で 11 ヶ月勤務。現在は、ダルフルの 2 つのプロジェクトのプロジェクトコーディネーターとして国連プロジェクトサービス機関 (UNOPS) スーダン事務所で勤務中。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

紛争問題が絶えないスーダン、イラクでの業務を通して平和構築、特に持続可能な平和を実現するための現地政府の能力強化の重要性を肌で感じ、その分野でキャリア形成をしていきたいと思うようになりました。ただ、これまで平和構築について体系的に学ぶ機会がなかったことから、平和構築人材育成事業を通し、平和構築について学ぶのと同時に、同分野でのキャリア形成に必要なネットワーク作りをしたいと思い応募しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

国内研修を通して、平和構築について体系的に学び、各分野の第一人者である実務者・講師陣の現場での実体験の話聞くことで平和構築に関する知識を深めることができました。また、グループワーク等では、様々なバックグラウンドをもつ他研修生と議論しあうことで、新たな発見があり、同時に、自身の経験についても振り返って整理することができました。国内研修で知り合った同期の研修員とは、研修終了後の現在も連絡を取り合い仕事や学習に関する情報共有を行う良い関係です。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

プログラムオフィサー（地方分権ガバナンス・平和構築担当）として、バングラデシュ東部のチッタゴン丘陵地帯にあるランガマティという町で、丘陵地帯の 3 県の地方行政機関の行政能力の向上、行政関連法規の整備に係る業務につきました。例えば、地方行政機関の能力強化については、行政機関職員の研修、住民参加型の行政を行う上での仕組みの導入、住民参加型の行政サービスを提供するための案件監理能力の強化（例えば、住民の要望の聴取、公平な調達、財務、Monitoring and Evaluation (M&E) 監理等の能力強化）を支援しました。また、同時に、CHTDF の所属していた部署 (Capacity Development and Service Delivery Cluster) 内の財務及び M&E の監理及び効率化にも携わりました。

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

これまで国際機関での勤務を希望しつつもなかなか機会がなかったため、今回の UNV の海外実務研修は国際機関の業務、特に UNDP の業務がどのように進められているかを理解する上で非常に有意義なものでした。また、希望の「持続可能な平和を実現するための現地政府の能力強化」に関連した業務につけたことで、その分野での知見を深めることができたことも大きな利点でした。今回の業務を通して、これまで NGO や JICA で培った経験をどのように国際機関の勤務に活かせるのかということが明確になりました。

最も印象に残っている業務は、担当案件（Harmonization of Chittagong Hill Tracts Laws）で、100 人規模の国家レベルのワークショップを開催し、大統領顧問等、影響力のある高官の出席及びそれら参加者から担当案件の今後の活動への後押しをえたことです。チッタゴン丘陵地帯における支援は政治的な思惑や現地での民族間の軋轢等、非常に複雑な状況の中で押し進められてきました。そのような状況下で、非常にセンシティブな問題である和平協定の実施にも関わる Harmonization of CHT Laws の活動（丘陵地帯の行政関連法規の整備促進を目的とする）が政府の後押しをえられたことは大きな達成でした。



Harmonization of CHT Laws ワークショップ



ワークショップ開催を手伝ってくれたボランティアと一緒に

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

今後は、海外実務研修の経験を活かし、「持続的な平和の実現のための政府の行政能力強化」の分野でキャリア形成を進めていきたいと考えています。海外実務研修では、11 ヶ月と短い間ではありましたが、幸運にも現地政府の行政能力強化プログラムに関わることができ、現地政府の能力開発がいかに平和を持続させるのに重要であるかを確認できました。特に、現地政府の政策立案、公共財政管理、公務員管理、援助協調、リーダーシップの確保等における行政能力強化は持続的な平和の実現に不可欠であることも確認できました。今後は、海外実務研修で得た経験を糧に、実務経験を積むのと同時に、大学院で同分野の専門性をつけることも視野にいれてキャリア形成していく予定です。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

研修を通して知り合った講師の方々、同期の研修員、海外事業研修で出会った人々等、本事業を通して出会った人々との繋がりは両研修を終えた後も続いており、かけがえのないものとなっています。

す。今後、平和構築の分野でキャリア形成を目指しており、平和構築に関する知識、現場での経験、ネットワークを築きたいと考えている方々には最適な事業であると思います。